

建築主：川添賢二
 設計：井川建築設計事務所
 施工：共新建設株式会社
 所在地：富里市中沢1161

先代への思いが伝わる古民家再生

千葉流古民家再生術



梁組みを見せた開放的なリビング空間

文化庁は補助事業として「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」を実施している。千葉県建築士会でも、平成22年度から毎年30人程度の研修生を会員の中から募集し、一期、3年計画で、経年50年以上の民家を中心に「歴史的建造物の保全・活用に係る掘りおこし事業」の担い手の育成をしている。県内には茅葺屋根にトタンをかぶせ、使用している民家は多く残されている。太い松丸太の小屋組み、40cm以上ある、檜や黒松材の差し鴨居は地元産の材料を使用したものである。残念ながら今はそのような大きな材料がとれる樹木は山に無い。

応募建物であるが、築90年の住宅改修工事である。改修前は8帖の土間、10帖の和室2室、8帖の和室3室にL字形の広縁がついた大きな農家住宅である。屋根は瓦葺きで軒の出も大きく太い化粧垂木を使用している。改修後はL字形の広縁を取り払い、DK15帖、リビング、多目的室、寝室と、床は全て板張りの部屋に造り変えている。しかし、壁は真壁を残し、白色の塗装仕上げで古民家の太い柱、いく重にもかさなる丸太梁の味を活かしている。広い土間

は一部を残し、表の出入口から裏側の庭に通抜けられるように設計され、各部屋と共に通気性を考慮している。古民家の改修は耐震補強が問題であるが、基礎工事から改修し、開口部の一部を耐震壁にすることで解決した。浴室・トイレなどの水廻りは、現代のライフスタイルに住まい手の要望を合わせ機能的なスペースにしてある。古民家を単に改修するだけでなく、板戸や、力強い骨組みを美しい資源として再生してあることに、住まい手の先代への感謝の思いが伝わってきた。（青柳英俊）



外観全景



キッチンより新ストーブのあるリビングを見る。

(撮影/石井 雅義)